



「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)



みなさんこんにちは！ 第4回森林づくり全国推進会議の司会として出席した際に高校生による持続可能な未来に向けたアクションアイデア発表を拝聴しました。高校生のみなさんが楽しさと好奇心を持ちながら、真剣に森林の未来について考えている姿にとっても温かい気持ちになりました。また、今回の発表から伝わってきたのは単なるアイデアではなく、実際に自分の足で現場に行き、体を動かしながら実践した等身大の思いでした。

行動力あふれる高校生の発表を聞いて

みどりの大使が行く！



2025

ミス日本
みどりの大使

佐塚 こころ

高校生が描く森林のビジョン

今回発表したのは「SDGs QUEST みらい甲子園」のファイナリスト2チームで、1チームは竹林の整備や竹の活用の取組に関する発表でした。放置竹林の問題については以前から耳にしていたことが、高校生が自分たちで竹林に入り、竹を切り出したり利用方法を試したりしていたことに驚きました。竹を「厄介もの」として終わらせず、きちんと向き合えば地域の資源として生かせる、という前向きな姿勢がとても素敵だと思いました。若い世代の柔らかな発想が、森林の未来に新しい風を吹かせているように感じました。

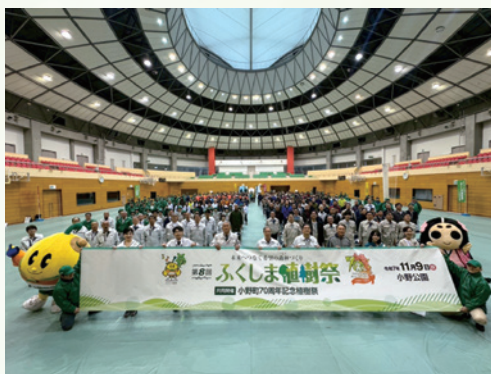
もう1チームの発表内容は、林業従事者と一般の人をつなぐ取組でした。林業の世界は専門的で、すぐに自分事として考えづらい面がありますが、「その距離を縮めたい」という思いから活動している姿勢に感銘を受けました。森林を知ると、普段は森林に関わる機会が少ない人がつながること、地域の中に新しい交流が生まれる。そ



の小さなつながりが、森林全体を元気にするきっかけになるのだと思います。高校生がその橋渡しをしているという事実が、とても頼もしく感じられました。今回、高校生のみなさんの発表を聞き、活動の内容はそれぞれ違っても、「緑を守りたい」「未来に森林を残していきたい」というまなざしには共通するものがあるように感じました。

第8回ふくしま植樹祭に参加しました

第8回ふくしま植樹祭では桜の木の剪定を体験しました。桜の枝をどこで切るかを決めるのは本当に難しく、少し位置がずれるだけで木に負担がかかったり、見栄えが悪くなったりすると教えていただきました。切った部分には菌が入らないように薬を丁寧に塗り、その作業ひとつひとつに「木も生きているんだ」という実感がこみ上



小さな気づきを大切に

今回の発表や体験を通して、森林を育むということとは特別な人だけの仕事ではなく、立場や世代を超えて関わり合えるものだと感じました。高校生たちの行動力も、桜の剪定で得た繊細さへの気づきも、すべてが未来の森林を支える一歩につながっています。こうした小さな実践と想いが重なり、豊かな森林の未来が形作られていくのだと思いました。こうした森林の未来をと共に作っていくような活動がこれからも広がることを願っています。



げてきたのを覚えています。改めて木の繊細さを感じられた体験でした。

